



### 二人一組になってください 《双葉社》 木爾 千レン／著



ある女子高の卒業式の日、1クラスしかない3年生の教室で、突然担任教師がデスゲームの開幕を宣言した…。

この本が出た当時、あらすじを読む限りデスゲーム要素が強くてティーンズにはちょっと刺激的すぎるかな？と思っていました。ですがそんな心配も

【F913.6/キナ】なんのその、今年度の県のビブリオバトル大会中学生の部で、二人もこの本を紹介していました。みんなグロいの好きなの…？と思いましたが、実際に読んでみるとそれは思い違いだったと分かりました。グロだけではなく、描かれている人間関係にこそ、魅力を感じた人が多かったのではないのでしょうか。

ルールに則り脱落者を決めていく中で、クラス内のキャストと友情の形が顕在化します。またこの本は章ごとに主人公が異なるため、同じ人物を主観と客観の両面から見た時に、そのギャップの大きさに恐怖を覚えるほどです。友情の破綻の原因や、それぞれの思いや願いは何なのかといった、複雑な人間関係を読書から体験できます。学校生活只中のみなさんも、共感できる感情を見つけられる本ではないかなと思います。

### 図解いちばんわかりやすい醜形恐怖症 《河出書房新社》

原井 宏明／著、松浦 文香／著

思春期に突入すると、ニキビができるようになることもあって自分の見た目に気を遣うようになる人が多いと思います。

大学生になったら思う存分髪を染めたり化粧するんだ！と今から意気込んでいるそこのアナタ、ちょっと待った！

大学デビューもいいけれど、それが思わぬ心の病気の入り口になってしまうかも。

それは「醜形恐怖症」。読んで字のごとく、自分のルックスを気にしすぎてしまうあまり、何度も鏡を確認したり、美容整形を繰り返したり、マスクが外せなくなってしまうたり…

この本では、醜形恐怖症のタイプや原因、治療について解説しているの、大学デビューの前にちょっと読んでみませんか？



【H493.7/ス】



### 銃とチョコレート 《講談社》 乙一／著

リンツ、メリー、ゴディバ…これらの共通点は何でしょうか？そう、チョコレートのメーカーです。この本は登場する人物や地名がチョコレートになっています。

主人公の少年リンツの住む国で富豪の家から金貨や宝石が盗まれる事件が多発します。現場に残されたカードには「GODIVA」の文字が。はたして名探偵ロイズは、怪盗ゴディバをつかまえることができるのでしょうか！？というお話です。

読んだ後、バレンタインの催事場に行くと、本に出てきた名前の元ネタとなるチョコレートが見られて楽しいかもしれません。誰が敵で誰が味方か…。ビターな世界でリンツと一緒に冒険しましょう！

【2F ポピ F913.6/オツ】



### 『ぱんぱかパン図鑑』 《地球丸》 金子 健一／著

突然ですが、みなさんは食パンに何を合わせるのが好きですか？私はマヨネーズと溶けるチーズをのっけて焼くのが好きです！パンって、アレンジ一つでおかずにもデザートにもなるのが良いですね。

この本の主役は、食パンやバターロール、バケットなどのプレーンなパンたち。著者が追及した142種類ものアレンジレシピが載っているので、その時の気分合ったものがきっと見つかるはず。トピックごとに、もちもち・サクサク、洋風・和風、さっぱり・こってりなど、食感や味わいの傾向がグラフ化されていて、今の気分ドンピシャなアレンジが探しやすいのも嬉しいポイント。図鑑のようなかわいいデザインで、ビジュアルも豊富なので、眺めているだけでもわくわく楽しい一冊です！いつものパンに、はじめてのアレンジを試してみませんか？

【H586.6/ハ】





### 正しく疑う

《Gakken》 池上 彰／監修



【361.4/タ】

「メディアリテラシー」。生まれた時からインターネットや SNS、動画サイトが当たり前にあったティーンズのみなさんにとっては、きっとこの言葉は耳にタコができるくらい聞いてきた言葉でしょうね。しかし、メディアリテラシーをきちんと守れていると自信を持って言える人は、なかなかいないのではないのでしょうか。また、この本のタイトルにもある「正しく疑う」ということをできている人も多くはないと思います。「正しく疑う」ためには、まずメディアの特性を知ること、メディアに隠れている危険性と可能性を知ること、そして自分自身の考え方や受け止め方の癖を知ることが必要になってきます。こうして文字でまとめると、何だか難しいことのように思いますが、この本を読みながら自分自身の普段の行動を振り返れば、十分「正しく疑う」ための準備は整いそうです。

年度が変わるこの時期に、身の回りにあふれている情報の扱い方や情報の発信の仕方について、改めて考えてみてはどうでしょうか。

### 皇后の碧

《新潮社》 阿部 智里／著

火竜におそわれて、家と家族を失った土の精霊の子、ナオミ。彼女は風の精霊で鳥の一族を統べる孔雀王(くじゃくおう)、ノアに救われ、持ち前の聡明さを活かして王側近の補佐となるべく、女官や女官見習いたちのことを逐一報告する役割についていました。

周りはみな風の精霊である中で、一人だけ土の精霊のため、心無い言葉をかけられることもありましたが、気にもかけず孔雀王の下でくらし始めて5年が経ったところ。

風の精霊全体を束ね、東方の地に君臨する蜻蛉帝(ぜいれいてい)シリウスが、ナオミたちのくらす鳥籠の宮に訪れて、ナオミはもてなしの席でシリウスの目にとまり、「寵姫の座を狙ってみないか」と持ちかけられます。

ナオミは自分が選ばれた理由を探るうちに、シリウスの後宮がもつ大きな秘密に気づきます。

長編精霊ファンタジアに興味を持ったかたは、ぜひご利用ください!



【TF913.6/アヘ】



### ホオズキくんのオバケ事件簿1

～オバケが見える転校生!～ 《ポプラ社》

富安 陽子／作, 小松 良佳／絵

新学期になり新しい環境でやっていけるかなど不安なことが多いですよ。この本を読むと少し気持ちが前を向くような気がします。

春休みに親友が引っ越し、元気を無くす主人公・真先に、人型の黒い影が取り憑いてしまいました。そのまま迎えた新学期、双子の鬼灯兄弟が転校してきて、真先は弟の京十郎と同じクラスになります。不愛想で感じの悪い京十郎の印象は最悪。しかし京十郎は真先に、自分はオバケが見える一族だと言い…!?

初対面の人との会話はとても緊張します。しかし、関わるうちに第一印象とは違った一面を発見したり、自分の知らなかった一面を引き出してもらえたり…。真先くんのように色々な事件に巻き込まれても、素直に行動すると意外とうまくいくかもしれません。根気よく人と関わることも悪くないかもという気持ちになるお話です。

【子ども 913/ト/1】



### 博士の愛した数式

《新潮社》 小川 洋子／著

「僕の記憶は80分しかもたない」毎朝、目が覚めるたび、博士は自分の身に起きている現実を、自ら書いたメモによって知る。事故の後遺症で、記憶をわずか80分しか保つことができない天才数学者の「博士」。彼の家で働くことになった家政婦の「私」と、10歳の息子「ルート」の交流を描いた物語です。

80分で記憶が消えてしまう博士にとって、玄関に現れる「私」は常に初対面。そんな日々の中で、博士は数式を通じて世界の美しさや優しさを教えてくれます。数字や数式には様々な意味が込められ、感情を伝える「言葉」のように描かれています。

切なくも胸が熱くなる、とにかく優しく温かな一冊です。

【F913.6/オカ】

